

愛あいニュース 8月号

在宅リハビリ強化型 訪問看護リハビリステーション愛あい



＜リハビリの事例紹介～朝食時間に訪問し食事練習したら～＞

ご本人：70歳代後半 小柄、痩せ型
現病歴：腰椎圧迫骨折、レビー小体型認知症
既往歴：右大腿骨頸部骨折
介護度：要介護5（骨折前は要介護3）
骨折後ADLほぼ全介助、自宅退院となった



夫婦二人暮らし

夫：70歳代後半
家事、介護に不慣れで介護負担感大きい。持病あり自身の健康に不安感あり。
夫の希望：車椅子に座り一緒にテーブルで食事をとりたい

＜事例の情報、初回評価＞

- ADL（日常生活活動）はほぼ全介助。FIM（機能的自立度評価法）では、食事2/7点（最大介助）、移乗1/7点（全介助）。
- 食事は、ギャッチアップ座位で姿勢の崩れ、食べこぼし、軽度むせあり、自力摂取が持続せず重度介助（ベッド上の姿勢調整を指導するが再現は困難）。
- リクライニング車椅子での軽食（コーヒー、菓子）は、むせなく自力摂取可能だが、前滑りとなりやすい。夫は移乗介助出来ず、臥床時間が長い。

＜リハビリ目標＞車椅子座位で食事をとる

＜リハビリプログラムと経過～結果＞

- 車椅子への移乗動作を夫へ指導、動作自体は軽介助だが、夫は恐怖心あり、毎日の介護生活に追われ、離床せずベッド上の食事が続いた。
- そこで、**実際の朝食時間に合わせて8時30分（週1回）に訪問し、移乗動作指導と食事動作の直接的な練習**（姿勢調整、食具操作など）を実施した。
- 夫は、事例が車椅子で食事を取る姿を見て大変喜び、座れば食べられると実感し、介護やり直しへ期待を持った。
- 約3ヶ月間継続し、**夫は移乗動作の介助方法を習得**、リハビリ日以外も車椅子で食事を摂取、その後テレビを見て過ごすなど**離床時間が増えた**。
- FIMは食事4/7点（最小介助）、移乗3/7点（軽介助）。



＜考察・まとめ＞

- リハビリ日以外の車椅子座位での食事摂取に時間を要したが、夫のペースに合わせ、心身の介護負担感を考慮し、励まし続けた。実際の朝食時間に合わせて訪問し、直接的な移乗動作と食事動作の練習という、訪問リハビリの利点を活かしたことで、目標を達成出来た。

【発行元】

24hs 緊急対応可！【事業所番号：0262790132】

在宅リハビリ強化型 訪問看護リハビリステーション愛あい

TEL：0178-51-9553 FAX：0178-51-9554

営業時間：平日 8:30～17:30（休日：土日）〒039-1526 五戸町字下長下夕 91-8

正看護師：4名
准看護師：2名
作業療法士：2名
理学療法士：1名
(2024年8月現在)